

DND COLUMN — 図解PDF資料

AI活用 | 2026.07.14

導入を急ぐ前に、 まず既存ツールのAIを使い倒す

Microsoft 365とGoogle WorkspaceのAI機能で
業務改善を始める考え方

発行：2026年7月14日

株式会社DnD — Distill n Develop

この資料の要点

- ・ Microsoft 365（Copilot）・Google Workspace（Gemini）には、メール下書き・文書要約・会議メモ自動化などのAI機能が組み込まれている。
- ・ 既存ツールのAI機能は追加コストを抑えながら試せる最初の一步として有効。
- ・ 汎用AIの限界を把握したうえで、業務固有の自動化に専用の仕組みを検討するのが正しい順番。

新しいAIツールを入れる前に確認したいこと

「AIを業務に取り入れたい」という相談を受けるとき、まず確認するのは「今使っているツールのAI機能を試しましたか？」という問いです。新たなサービスを契約する前に、すでに払っているサブスクリプションに何が含まれているかを把握することが、コストを無駄にしない最初のステップです。

Microsoft 365とGoogle Workspaceは、日本の中小企業が最も広く使っているビジネスツールです。この2つには、ここ数年でAIを活用した機能が継続的に追加されており、2026年時点では文書作成・メール対応・会議の文字起こしなど、日常業務の多くに活用できる段階に入っています。

Microsoft 365のAI機能（Copilot）でできること

Microsoftは「Microsoft 365 Copilot」という名称でAI機能を展開しています。代表的な活用場面は次の通りです。

- ・ **Outlook（メール）**：過去のスレッドを要約する、返信文の下書きを生成するといった用途で処理時間を短縮できます。
- ・ **Word（文書作成）**：ひな形や指示を与えると文章の初稿を生成します。報告書・提案書・議事録など、書くことに時間がかかる業務全般に活用できます。

- ・ **Excel（表計算）**：自然言語で「先月比で売上を比較して」といった指示を出すと、数式の提案やグラフ生成を補助します。
- ・ **Teams（会議）**：会議の文字起こしと要約を自動生成します。「誰が何を決めたか」「次のアクションは何か」を会議直後に確認できるため、議事録作成の工数を大幅に削減します。

Google WorkspaceのAI機能（Gemini）でできること

Googleは「Gemini」というAIをGoogle Workspaceに統合しています。日常業務に直結する機能が揃っています。

- ・ **Gmail（メール）**：メールのスレッドを要約したり、返信文を下書きしたりする機能があります。
- ・ **Google Docs（文書）**：テーマや概要を入力すると文章の初稿を生成します。
- ・ **Google Sheets（表計算）**：自然言語でデータの集計・整理を指示できます。
- ・ **Google Meet（会議）**：会議中にリアルタイムでメモを自動生成し、終了後に要約を提供します。

既存ツールのAIで対応できる範囲と、対応が難しい範囲

両ツールのAIが得意とする用途：

- ・ 定型的なメール・書類の下書き生成
- ・ 会議や文書の要約・要点抽出
- ・ 簡単なデータ集計・グラフ化の補助
- ・ 文章の校正・言い回しの改善提案

一方で、対応が難しい領域：

- ・ **自社データと連動した分析**：自社の受注履歴・顧客データ・在庫情報などを参照しながら回答する用途は、汎用AIだけでは実現しません。RAGや専用ダッシュボードが別途必要です。

- ・ **業務フロー全体の自動化**：「メールが届いたら自動で会計ソフトに転記する」といった業務横断の自動化は、ワークフロー自動化ツールやカスタム開発と組み合わせる必要があります。
- ・ **繰り返し業務の完全自動化**：承認フロー・在庫発注・請求処理といった定型業務の「ゼロ手動化」は、既存ツールのAIだけでは達成が難しい領域です。

まず試す3つの切り口

- ・ ① **メールの返信下書き**：1週間、外部宛ての返信メールを書く前にAIに下書きを作らせてみる。「どう使えば効率が上がるか」を実感するための最短ルートです。
- ・ ② **会議の議事録要約**：TeamsまたはGoogle Meetの会議要約機能をオンにして、手書きの議事録と比較する。作成時間の差を数字で確認することで、社内展開の可否を判断しやすくなります。
- ・ ③ **既存文書の要約・検索**：過去の提案書・規程・マニュアルをAIに要約させ、必要な情報を探す時間を計測する。この用途が有効なら、社内ナレッジのAI活用（RAG構築など）の優先度を上げる根拠になります。

既存ツールで試した先に残る課題がある場合は、ご相談ください。

株式会社DnDでは、自社データを活用した分析基盤の構築、業務フローの自動化、SaaSの代替などをご支援しています。「次のステップが見えてきた」という段階からでも、お気軽にお問い合わせください。

<https://dnd-inc.jp/contact.html>